

---

# ホラーゲームの世界へ《ハジマリ》

るぴありー(ゝ ・ ´ )

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ホラーゲームの世界へ《ハジマリ》

### 【Nコード】

N9037Y

### 【作者名】

るぴありー（ゝ・・）

### 【あらすじ】

なぜか公園のベンチで寝てしまっていた主人公の佐藤拓也。目を覚ますとそこはバイオハザードの世界だった。

拓也の対ゾンビの結末とは！？  
拓也はこの世界から抜け出せるのか！？

っていうホラーサスペンス小説（・・）ノ

っ…!?

俺は目を覚ました。

気がつけば深夜になっていた。

空は真つ暗だ。

なぜ俺は公園のベンチで眠っていたのか…

意味がわからない。

何も思いだせない。

ポケットの辺りが重く感じる。

俺はポケットに手を伸ばした。

「おいおい…なんだよこれ」

取り出してみると

「なんとということでしょう」「という台詞が脳裏をよぎる。

ポケットには薬草らしき緑色の葉とハンドガンとタガーナイフのポケットにはいるくらいの小さい版のやつ。

計3つの代物が入っていた。

「寝てる間に俺は殺し屋にでもなったのかよ…」

この俺、佐藤拓也は普通の高校3年生だ。

今年で卒業。なのに俺は勉強もしないで一体何をやっているんだ…

「とりあえず家に帰るか」

俺は早歩きで自宅へ向かう。

その帰り道、桜の木の裏に人影が見えた。

「ん…??」

その人影に俺は気づかれないようにそーっと近づく。

少しずつその距離は縮まっていくな。

一歩ずつ、音を立てず…

「ひゃーっはっはっはあー!!」

先に姿を現したのは人影のほうであった。

信じられるのだろうか…

今、俺の前にはシルクハットを頭の上ののせ、  
ピンク色の髪を持つマジシャンらしき人物がいることを。

(後書き)

読んで頂き誠に有り難う御座います。  
これからも宜しくお願い致します。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9037y/>

---

ホラーゲームの世界へ《ハジマリ》

2011年11月27日02時00分発行